

山梨県神社庁報

かみかね

庁長・総代会長式辞	2~3
庁務報告	4~8
まんが古事記「あまのいわと」	9~12
本庁・神宮報告	13
教化委員会報告	14

初任神職研修会、各大会	15~16
支部だより	17
社頭講話	18
外郭団体報告	19
今後の神社事業（ご案内）	20

敬神生活の綱領

神道は天地悠久の大道であつて、崇高なる精神を培ひ、太平を開くの基である。

神慮を畏み祖訓をつぎ、いよいよ道の精華を發揮し、人類の福祉を増進するは、使命を達成する所以である。

ここにこの綱領をかかげて向うところを明らかにし、実践につとめて以て大道を宣揚することを期する。

一、神の恵みと祖先の恩とに感謝し、明き清きまことを以て祭祀にいそしむこと

一、世のため人のために奉仕し、神のみこともちとして世をつくり固め成すこと

一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世界の共存共栄とを祈ること



式辞

序長 羽中田 進

本日ここに、平成二十三年度山梨県神社関係者大会を開催いたしましたところ、神社本庁統理様、神宮大宮司様をはじめ多数のご来賓のご臨席を賜り、県下各地から大勢の神社関係者のご出席を頂き、斯も盛大に大会が挙行できますことは、誠に同慶の至りに存じ衷心より感謝と御礼を申し上げます。

本年三月十一日有史以来の大天災と云われる大地震と大津波又福島原発の損壊等東日本大震災において犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げると共に被災されました皆様には心からお見舞いを申し上げます。一日も早い復興ができますよう国民挙げて支援をして行かなければならないと感じております。

畏くも天皇陛下におかせられましたは、天機御麗しく御政務に御精励され、国家国民の上にまた神宮を始め神社のことに大御心をつかわされますことは、洵に有難く畏き極みであります。

本宗と仰ぐ神宮のことにつきましては、神職・総代をはじめ氏子・崇敬者のご理解とご協力により、神宮大麻の頒布を行っておりますが、昨年は僅かに前年度より減少となりましたので本年は各支部が増体頒布の機運を醸成し尚一層のご尽力をお願い申し上げます。平成二十五年に御斎行されます、第六十二回神宮式年遷宮の奉賛のことにつきましては、神職・総代のご努力と氏子・崇敬者のご理解ご協力により目標にいま一歩の所まで参りましたので、目標達成のため一層のご尽力をお願い申し上げます。

神社本庁と本県神社庁におきましては、皇室の尊厳を護持し神社神道の興隆を計り、国の隆昌と国民の繁栄を祈り、伝統と文化を守り国民精神の昂揚を推進するとの基本方針に沿って、諸事業・行事を執行して参りま

した。特に敬神崇祖と尊皇愛国の心を養い、良き日本人の心と日本人の誇りを取り戻し、恕・思い遣りの社会を形成して参りたいと存じます。これを実現するには、神職・神社総代が互に連携して神徳の宣揚に勉め祭典の振興を計り、氏子・崇敬者の教化育成と神社活動を一層活発に推進されることが期待されておりますので、神社庁においても、皆様方のご協力で昨年竣工された庁舎、神殿等を活用し、新たな事業・行事を開催して、氏子・崇敬者・青少年の教化育成に取り組んで参りますので、今後共なお一層のご協力をお願い申し上げます。

本日功績表彰をお受けになられました方々に対し、平素より斯道発展のために尽されましたことに感謝を申し上げ、衷心よりお祝いを申し上げます。

また、この一年間に物故されました、神職、神社総代、神社関係者各位のご功績を偲び、謹んでご冥福を祈り、哀悼の意を表します。

最後になりましたが、ご関係の神社のご発展とご参会の皆様方のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。式辞といたします。

神社関係者大会並びに

六十五周年大会開催に寄せて



山梨県神社総代会会長

宮 川 睦 武

紅葉の季節、神社総代および
神社関係者の皆様には、元氣に
お過ごしのこととお喜び申し上げ
ます。また、日頃より神社信
仰にご協力、ご厚意を賜り、深
く感謝申し上げます。
皇室におかれましても、益々
のご繁栄をお慶び申し上げます。
次第であります。

さて、三月十一日の東日本大
震災は、一万人を超す死者、行
方不明者という深刻な様相を呈
しており、被災地の神社や氏子
の皆様にも甚大な被害をもたら
しました。

天皇皇后両陛下も被災地に歴
訪され、不況と災害のどん底に
ある中、大御心を頂いたことは
誠に畏き極みであります。

被災された皆様に心よりお見
舞いを申し上げますと共に、犠牲

となられた方々に心より哀悼の
意を表します。

また、百年に一度といわれる
経済不況にあつた日本経済にお
いては、千年に一度の大災害に
見舞われ、急激な円高は海外へ
のシフトを助長し、国内産業の
空洞化が懸念され、電力不足や
収束が見えない原発事故の影響
は、企業活動および消費の低迷
を引き起こしています。

不安定な政治においては、総
理が交代し、党内融和を目的に
取り組むとのことですが、日本
の復興のために、初志を全うし
て頂きたいと思えます。

一方、震災後、海外メディア
から、災害時における日本人の
秩序ある冷静な対応に賞賛の声
が寄せられました。忍耐力や礼
儀正しさなど日本に学ぶことが

多くあるというものです。これ
らの基になつてきているのは、教育
により培われてきた日本の心、
つまり信仰心ではないでしょう
か。

私達の祖先は農耕などを通
じ、自然との関わりの中で生活
を営んできました。人間は自然
の一部であり、自然の力は人間
に恵みを与える一方、猛威もふ
るう、そんな自然現象に神々の
働きを感じてきました。

震災および経済不況からの瑞
穂の国日本の復興は、皆の信仰
心なくしてはありえません。敬
神崇祖の念を忘れず、国民一人
一人が研鑽を積み、氏神様に対
して心からの信仰を捧げること
を切に願います。

また、平成二十五年の伊勢の
式年遷宮におきましても、皆様
の温かいご協力とご参列をお願
いしたいと存じます。

最後に、この六十五周年を契
機として、心新たに一致団結を
お願い申し上げますとともに、各
地に祀られている神々のご加護
を頂き、日本の国が栄え、皆様
にご加護を賜りますようお願い
申し上げます。挨拶といたします。

山梨県神社庁設立六十五周年記念
平成二十三年度神社関係者大会

第一部 物故神職総代慰霊祭

(午後一時三十分開始)

、諸員著席

、齋主以下祭員著席

、修祓(一同起立低頭)

、降霊(一同起立低頭)

、献饌(此の間奏楽)

、祭詞奏上(一同起立低頭)

、玉串奉奠

、撤饌(此の間奏楽)

、昇霊(一同起立低頭)

、齋主以下祭員退下

第二部 献吟

、吟詠 高原國佐

、詩舞 山縣静博

第三部 式典

、開式の辞

、神宮遙拝

、国歌斉唱

、敬神生活の綱領唱和

、庁長式辞

、総代会長挨拶

、神社庁並総代会庁務報告

、神社功績者表彰

、大麻頒布優良奉仕者表彰状伝達

、祝辞

、神社本庁統理

、神宮大宮司 他

、被表彰者謝辞

、大会宣言

、聖寿万歳

、閉式の辞

庁務報告

事業

- 1、神宮式年遷宮奉賛
- 2、神宮大麻奉斎推進
- 3、神殿三大祭斎行
- 4、神宮新穀感謝祭奉賛
- 5、靖国神社公式参拝実現運動実施
- 6、北方領土返還運動継続
- 7、各種研修
- イ、現任神職研修会
- ロ、初任神職研修会
- ハ、総代研修会
- ニ、雅楽研修会
- ホ、関東地区中堅神職研修会
- ヘ、女子神職研修会
- 8、一都七県神社庁連合会諸会議
- 9、国旗掲揚運動推進
- 10、金品寄付者顕彰
- 11、神政連活動に協力
- 12、神社奉護運動推進
- 13、日本会議活動に協力
- 14、郷土曆編纂配布
- 15、庁報「かひがね」年四回発行

神社本庁統理の承認を申請した神社

- 甲府 武田神社 権宮司設置
- 伊勢社 境内地拡大
- 東山梨 東山梨 障害木伐採
- 神部神社

神部神社	随神門修理	枯損木伐採
少宮神社	拝殿屋根葺替	地上権設定
熊野神社	境内地無償貸付	
浅間神社	境内地無償貸付	
鎌倉神社	境内地無償貸付	
峽南	便所新築	
浅間神社	境内地売却	
八王子社	境内地売却	
八幡一宮諏訪神社	境内地売却	
山神社	境内地	
八幡神社	境内地贈与	
峽中	境内地無償貸与	
八幡神社	境内地売却	
神明神社	境内地売却	
峽北	境内地売却	
開拓神社	境内地売却	
柳原神社	境内地売却	
南都留	境内地売却	
浅間神社	境内地売却	
浅間神社	主要建物移築	

神社本庁規程表彰

大嶽山那賀神社高司	日原 盛幸
金山神社高司	金子 寿元
銚立神社総代会長	中田 欽哉
神社庁規程表彰	
稲積神社権備宜	篠原 康正
篤神社徳齋南齋齋代	山田 公仁
天神社高司	松田 公夫
比枝神社高司	津金八千代
一宮賀茂神社高司	稲葉 政信

浅間神社総代会長	笠井 義仁
諏訪神社高司	祝 與一郎
銚立神社総代会長	中田 欽哉
天神社高司	長田 敏貴
草玉山小嶽神社権備宜	佐々木浩文
神宮大麻頒布優良奉仕者	
優良支部	東八代支部
神宮大麻特別表彰	
武田神社高司	土橋 勝夫
武田神社高司	土橋 勝夫
優良奉仕者	
武田神社高司	土橋 勝夫
黒戸奈神社高司	今澤 昭彦
天神社権備宜	渡邊 英明
諏訪神社高司	齋藤 實
御名方神社高司	守屋 貞男
全国神社総代会規程表彰	
銚立神社総代会長	中田 欽哉
稲村神社総代会長	天野 和喜
山梨県神社総代会規程表彰	
住吉神社総代会長	山田 森高
八雲神社総代会長	齋場 幸義
八幡神社総代会顧問	堀内 保
熊野神社総代会長	渡邊 和夫
一實神社総代会長	樋口 八郎
八幡神社総代会長	北田 富夫
住吉神社総代	長村 誠三
住吉神社総代	河内 弘
酒折宮総代会長	間瀬 勇造
酒折宮責任役員	菅原 五男
神明神社総代会長	五味 正隆
神明神社前総代会長	荻野 正幸
鈴富諏訪神社前総代会長	福田 泰正
鈴富諏訪神社総代会長	岩下 修二

高宮大神社前総代会長	飯塚 司
古宮大神社前総代	内田 紀弘
大井俣神社総代会長	奥井 嘉和
大井俣神社副総代会長	樋川 正彦
大井俣神社総代	金子 一参
大井俣神社総代	竹川 健一
石和嶮宮総代(顧問)	池谷 昭五
佐久神社氏子総代長	荻野 勇夫
弓削神社総代会理事	村松 正徳
浅間神社総代会長	青柳 昭
表門神社総代会長	雨宮 洋光
若宮八幡神社総代会長	望月 致禎
山縣社奉斎常任理事	鷹野 直
武田八幡宮総代会長	矢崎 一郎
穂見諏訪十五所神社総代会長	小池 英夫
穂見諏訪十五所神社総代	倉田 正男
穂見諏訪十五所神社総代	小尾 賢
穂見諏訪十五所神社総代	窪田 義久
穂見諏訪十五所神社総代	保坂 康三
逸見神社総代会長	丸茂 實

【新任神職】

筒口神社権備宜	福住 和夫
諏訪神社高司	岩下 康二
中尾神社権備宜	田村かおる
熊野神社権備宜	土屋 正人
【昇任神職】	
唐土神社高司	小田切宣幸
北野天神社高司	進藤 柏男
浅間神社高司	中田 進
富士浅間神社高司	羽田 昭之

富士御室浅間神社高司	外川 和夫
富士浅間神社権備宜	安田 洋人
武田神社権備宜	佐々木高仁
稲積神社権備宜	有泉 享
【帰幽神職】	
若宮八幡神社権備宜	宮沢 壮夫
宇波刀神社高司	岩下一幸
富士御室浅間神社高司	外川 和夫
【退職神職】	
浅間神社権備宜	齋藤 隆信
北野天神社高司	進藤 正金
花開神社権備宜	内藤 学代
山之神社高司	羽田 義雄
酒折宮権備宜	小澤 左膳

退任の御挨拶

佐々木 高仁

この度六月三十日付を以ちまして神社庁参事の職を辞任致しました。平成七年五月一日神社庁主事を拝命してより十六年の永きに亘りお世話になりました。

私には荷の重すぎる重責ではありましたが、神職・総代の皆様方のご協力を頂いて大過なく勤められました事に深く感謝申し上げます。これからも一神職として奉務神社の奉仕は勿論の事、神社庁の諸事業にも微力を尽してゆくつもりです。今後共宜しくお願い致します。

庁 務 日 誌 抄

祭 儀 関 係

平成二三年

平成二三年	神殿月次祭齋行	一・二	神殿歳旦祭齋行	八・二六
一〇・一	神宮初まり参拝	一・一八	神宮初まり参拝	八・二五
一〇・二	旅行	二〇	たま祭参列	一一・四
一〇・五	神殿例祭齋行	一・二六	北口本宮富士浅間神社(吉田の火祭り)参列	一一・二〇
一〇・二〇	神殿月次祭齋行	二・一	神社(吉田の火祭り)参列	一一・二二
一〇・二六	神殿新年祭齋行	二・一四	神宮新穀感謝祭参列	一一・二六
一〇・二九	神殿月次祭齋行	三・一	神宮大麻曆頒布始祭参列	一一・二七
一〇・二九	六十周年奉告祭	三・一	山梨県神社例祭献幣使参列	一一・二八
一〇・二九	神宮大麻頒布修了祭参列	三・五	山梨神社例祭献幣使参列	一一・二八
一一・一	折願祭	三・三〇	神社本庁・神社庁・総代会	一一・二八
一一・二	神殿月次祭齋行	四・一	折願祭	一一・二九
一一・二	山梨縣護國神社例祭参列	四・五	折願祭	一一・二九
一一・二	武田神社例祭献幣使参列	四・二二	折願祭	一一・二九
一一・二	東日本大震災復興祈願祭	四・二二	折願祭	一一・二九
一一・二	東日本大震災復興祈願祭(神道青年会)	四・二二	折願祭	一一・二九
一一・二	河口浅間神社例祭献幣使参列	四・二五	折願祭	一一・二九
一一・二	神殿新嘗祭齋行	四・二八	折願祭	一一・二九
一一・二六	伊勢神宮新穀感謝祭参拝旅行	五・二	折願祭	一一・二九
一一・一七	神殿月次祭齋行	五・三	折願祭	一一・二九
一一・一三	第五十四回伊勢神宮新穀感謝祭参列	五・五	折願祭	一一・二九

神 社 本 庁 ・ 神 社 庁 ・ 総 代 会

平成二三年	神殿月次祭齋行	一・一	明治神宮鎮座九十年式典(明治神宮会館)	一一・二二
一〇・一	神殿月次祭齋行	一・一	教化委員会	一一・二二
一〇・二	山梨縣護國神社み	八・一五	全国教化会議(本庁)	一一・二二
一〇・五	たま祭参列	一一・四	尖閣を守る街頭キャンペーン	一一・二二
一〇・二〇	北口本宮富士浅間神社(吉田の火祭り)参列	一一・二〇	神宮初まり	一一・二二
一〇・二六	神殿例祭齋行	一一・二二	役員会	一一・二二
一〇・二九	神殿月次祭齋行	一一・二二	北方領土返還要求運動啓発活動(小瀬スポーツ公園)	一一・二二
一〇・二九	神殿新年祭齋行	一一・二六	役員会、役員・神職合同初会	一一・二二
一〇・二九	神殿月次祭齋行	一一・二七	伊勢神宮「式年遷宮」パネル展(岡島百貨店)	一一・二二
一一・一	六十周年奉告祭	一一・二八	北方領土返還要求街頭キャンペーン	一一・二二
一一・一	神宮大麻頒布修了祭参列	一一・二八	北方領土返還要求運動全国大会(九段会館)	一一・二二
一一・二	折願祭	一一・二五	峡北支部初会	一一・二二
一一・二	神殿月次祭齋行	一一・二五	役員会、総代会役員会、教化講演会	一一・二二
一一・二	山梨縣護國神社例祭参列	一一・二六	不活動法人対策研修会	一一・二二
一一・二	武田神社例祭献幣使参列	一一・二六	修会	一一・二二
一一・二	東日本大震災復興祈願祭	一一・二六	甲府支部初会	一一・二二
一一・二	東日本大震災復興祈願祭(神道青年会)	一一・二六	教誨師研修(埼玉)	一一・二二
一一・二	河口浅間神社例祭献幣使参列	一一・二六	教化委員会	一一・二二
一一・二	神殿新嘗祭齋行	一一・二六	峡北支部初会	一一・二二
一一・二六	伊勢神宮新穀感謝祭参拝旅行	一一・二六	神社本庁職員実務研修(本庁)	一一・二二
一一・一七	神殿月次祭齋行	一一・二六	竹島の日街頭キャンペーン	一一・二二
一一・一三	第五十四回伊勢神宮新穀感謝祭参列	一一・二六	都七県神社庁連合会総会(大洗ホテル)	一一・二二
一〇・二七	役員会、身分選挙委員会、表彰委員会	一一・二七	不活動法人研修会(二ツ橋会館)	一一・二二

三・二	茨城県神社庁六十 五周年式典	部四十周年記念式 典(関内ホール)	五・三〇	部研修会 役員会	六・二七	日本会議関東プロ ック理事会(本庁)	八・八	研修② 役員会、定例協議 員会
三・四	大麻頒布モデル支 部制度対策担当者 会(神宮)	千葉県神社庁役職 員庁舎見学	五・三〇	千葉県神社庁役職 員庁舎見学	六・二七	教育関係神職協議 会総会(神社庁)	八・九	女子神職会総会、 庁報委員会
三・五	神宮大麻頒布推進 会議	主権回復記念日街 頭キャンペーン	四・二八	運動常任理事会・ 総会・講演会(談 露館)	六・二九	住吉神社敬神婦人 会庁舎見学	八・一八	神社関係者囲碁大 会
三・六	峡北支部浦安の舞 講習会	五・三憲法記念日 集会	五・三	五・三憲法記念日 集会	六・二九	総代会役員会	八・一八	親子参宮団 会
三・七	一都七県神社庁中 堅神職研修会(天 洗ホテル)	東八代支部総会	五・七	東八代支部総会	七・四	庁報委員会	八・一八	親子参宮団 会
三・九	甲府支部研修会	峡南支部総会	五・七	峡南支部総会	七・四	教化委員会宿泊研 修会(ホテル石風)	八・二二	神政連代議員会
三・九	庁報委員会	神政連一都七県本 部長・幹事長・事 務局長会(明治記 念館)	五・九	神政連一都七県協 議会総会(ハイラ ンドリゾート)	七・一	教化委員会宿泊研 修会(ホテル石風)	八・二二	神政連代議員会
三・一〇	教化委員会宿泊研 修(ホテル石風)	神職連本部長事務 局長連絡会(本庁)	五・九	神職連本部長事務 局長連絡会(本庁)	七・一	神職身分二級伝達 交付式	八・二二	モテル支部頒布対 策推進会議
三・一一	一都七県神社庁中 堅神職研修会	神職連中央委員会 (本庁)	五・九	神職連中央委員会 (本庁)	七・一三	庁報委員会	八・三〇	敬神婦人会総会
三・一二	支部研修会	神職連中央委員会 (本庁)	五・一〇	神職連中央委員会 (本庁)	七・一三	庁報委員会	八・三〇	敬神婦人会総会
三・一三	役員会	神職連中央委員会 (本庁)	五・一一	神職連中央委員会 (本庁)	七・一三	庁報委員会	八・三〇	敬神婦人会総会
三・一八	庁報委員会	一都七県神社庁事 務担当者職員研修 会(筑波山京成ホ テル)	五・一二	一都七県神社庁事 務担当者職員研修 会(筑波山京成ホ テル)	七・一五	一都七県神社庁中 堅神職研修会(明 治神宮)	九・一八	教誨師研究会(長 崎)
三・三〇	臨時役員会	千葉県神社庁設立 六十五周年記念大 会(ホテルニュー オータニ幕張)	五・一七	千葉県神社庁設立 六十五周年記念大 会(ホテルニュー オータニ幕張)	七・一五	一都七県神社庁中 堅神職研修会(明 治神宮)	九・一八	教誨師研究会(長 崎)
四・六	遷宮奉賛会理事 会・評議員会(本 庁)	女子神職会研修 伊勢神宮崇敬会理 事会、常任評議委 員会(神宮会館)	五・一七	女子神職会研修 伊勢神宮崇敬会理 事会、常任評議委 員会(神宮会館)	七・二五	一都七県神社庁中 堅神職研修会(明 治神宮)	九・一八	教誨師研究会(長 崎)
四・七	本庁顧問長老参与 会(本庁)	神社庁事務担当者 会(本庁)	五・一八	神社庁事務担当者 会(本庁)	七・二五	一都七県神社庁中 堅神職研修会(明 治神宮)	九・一八	教誨師研究会(長 崎)
四・七	庁報委員会	全国神職保護司会 総会(東郷記念館)	五・一九	全国神職保護司会 総会(東郷記念館)	七・二五	一都七県神社庁中 堅神職研修会(明 治神宮)	九・一八	教誨師研究会(長 崎)
四・二一	本庁評議員一都七 県の会(明治記念 館)	正副庁長会、予算 委員会	五・二〇	正副庁長会、予算 委員会	七・二五	一都七県神社庁中 堅神職研修会(明 治神宮)	九・一八	教誨師研究会(長 崎)
四・二一	教化担当部門会議 (本庁)	氏子青年会総会 (稲積神社)	五・二〇	氏子青年会総会 (稲積神社)	七・二五	一都七県神社庁中 堅神職研修会(明 治神宮)	九・一八	教誨師研究会(長 崎)
四・二二	役員会、身分選考 委員会、表彰委員 会	懲戒委員会、役員 会	五・二二	懲戒委員会、役員 会	七・二五	一都七県神社庁中 堅神職研修会(明 治神宮)	九・一八	教誨師研究会(長 崎)
四・二二	役員会、身分選考 委員会、表彰委員 会	懲戒委員会、役員 会	五・二二	懲戒委員会、役員 会	七・二五	一都七県神社庁中 堅神職研修会(明 治神宮)	九・一八	教誨師研究会(長 崎)
四・二七	神政連神奈川県本 会	第四十七回全国神 社総代会大会(北 海道)	五・二九	第四十七回全国神 社総代会大会(北 海道)	八・六	総代会監査、神 政連監査	九・一八	遷宮奉賛会地区本 部事務担当者会議

山梨県神社庁経常費歳入歳出決算				自	平成22年7月1日	至	平成23年6月30日
山梨県神社庁経常費歳入歳出予算				自	平成23年7月1日	至	平成24年6月30日
歳 入 の 部							
款項	科 目	22年度決算額	本年度予算額				
神社本庁幣帛料		386,600	380,000	光 熱 水 費		916,213	1,000,000
負 担 金		23,145,800	22,691,000	通 信 運 搬 費		578,093	700,000
本 庁 協 賛 金		580,000	600,000	賄 費		20,671	50,000
神 社 負 担 金		11,722,800	11,484,000	旅 費		1,212,870	1,500,000
神 職 負 担 金		8,518,000	8,277,000	交 際 費		753,471	950,000
特別神社寄贈金		1,925,000	1,930,000	慶 弔 費		115,000	200,000
神宮奉賛活動推進費		400,000	400,000	雑 費		75,030	100,000
交 付 金		49,745,840	49,100,000	事 業 費		7,121,426	10,130,000
神宮神徳宣揚費		48,400,000	47,900,000	教 化 関 係 費		723,246	1,700,000
神社本庁交付金		1,345,840	1,200,000	教 化 委 員 会 費		2,171,465	2,600,000
財 産 収 入		30,239	25,000	神 社 振 興 奨 励 費		200,000	200,000
神 殿 奉 納 金		15,000	10,000	地 方 研 修 所 費		191,500	1,000,000
財 産 利 子		10,045	10,000	講 習 会 助 成 費		0	50,000
預 金 利 子		5,194	5,000	庁 報 発 行 費		690,532	1,000,000
諸 収 入		5,337,597	4,300,000	郷 土 暦 調 整 費		879,795	1,000,000
郷 土 暦 頒 布 費		1,945,650	1,900,000	神 宮 奉 賛 活 動 推 進 費		400,000	400,000
手数料並授与料		1,389,000	800,000	指 定 団 体 補 助 金		1,220,000	1,220,000
雑 収 入		882,947	500,000	神 社 本 庁 協 賛 金		435,000	450,000
特別納付金		1,120,000	1,100,000	表 彰 費		41,895	300,000
当 初 運 営 金		6,000,000	6,000,000	神 社 調 査 費		97,993	100,000
繰 越 金		11,871,379	11,850,000	諸 祭 寄 贈 金		70,000	100,000
歳 入 合 計		96,517,455	94,346,000	雑 費		0	10,000
歳 出 の 部							
款項	科 目	22年度決算額	本年度予算額				
幣 帛 料		436,000	450,000	神 社 本 庁 負 担 金		4,761,900	4,400,000
神宮神徳宣揚費		31,415,040	31,420,000	大 麻 暦 頒 布 費		697,100	830,000
本 庁 特 別 納 付 金		9,685,040	10,000,000	頒 布 始 祭 費		80,000	80,000
支 部 交 付 金		21,730,000	21,420,000	郷 土 暦 頒 布 交 付 金		583,695	650,000
会 議 費		3,077,505	4,600,000	荷 造 発 送 費		33,405	50,000
役 員 会 費		1,373,161	1,600,000	雑 費		0	50,000
委 員 会 費		127,712	200,000	派 遣 費		980,066	1,210,000
関 係 者 大 会 費		1,093,539	2,100,000	評 議 員 派 遣 費		266,646	300,000
参 与 会 費		483,093	700,000	一 都 七 県 連 合 会 派 遣 費		549,780	700,000
給 料 及 諸 給 与		19,501,014	13,116,820	神 宮 奉 仕 員 派 遣 費		10,000	10,000
給 給 手 当		10,857,200	6,842,400	事 務 担 当 者 派 遣 費		153,640	200,000
諸 給 与		2,356,500	1,808,520	会 館 運 営 費		1,179,779	1,270,000
賞 与		4,067,710	2,565,900	神 殿 費		136,689	150,000
備 人 料		43,000	300,000	借 地 費		400,000	200,000
社会保険・厚生年金		2,137,524	1,500,000	営 繕 費		300,000	300,000
福 利 厚 生 費		39,080	100,000	管 理 費		184,350	500,000
庁 費		4,902,988	6,050,000	諸 費		158,740	120,000
備 品 費		750,190	900,000	資 金 財 産 造 成 費		3,120,000	3,120,000
文 房 具 費		26,563	50,000	基 本 財 産 造 成 費		10,000	10,000
図 書 印 刷 費		70,046	200,000	予 備 資 金 積 立 金		10,000	10,000
消 耗 品 費		384,841	400,000	職 員 退 職 金 積 立 金		3,000,000	3,000,000
				会 館 維 持 資 金 積 立 金		100,000	100,000
				分 担 金		426,200	500,000
				運 営 資 金 積 立 金		800,000	800,000
				次 年 度 当 初 運 営 金		6,000,000	6,000,000
				予 備 費		0	10,449,180
				歳 出 合 計		84,419,018	94,346,000

山梨県神社庁総代会経常費歳入歳出決算 山梨県神社庁総代会経常費歳入歳出予算				自 平成22年 7月 1日 至 平成23年 6月 30日	自 平成23年 7月 1日 至 平成24年 6月 30日	
歳入の部				消耗品費	0	5,000
款項	科目	22年度決算額	本年度予算額	旅費	106,830	200,000
諸	収入	3,124,404	3,008,330	手当	120,000	120,000
負	入金	1,616,100	1,554,600	慶弔費	48,500	50,000
協	賛入金	1,469,000	1,444,000	役員会費	15,047	160,000
寄	付	0	5,000	雑費	25,412	50,000
雑	収入	39,304	4,730	全国神社総代会代議員派遣費	29,500	80,000
前	繰越金	1,052,473	2,101,670	負担金	171,600	172,000
年	計	4,176,877	5,110,000	事業費	1,443,625	3,960,000
歳				神社振興対策費	0	10,000
歳出の部				講演会費	0	500,000
款項	科目	22年度決算額	本年度予算額	功績者表彰費	17,944	150,000
諸	支出	359,982	715,000	研修費	457,000	700,000
備	品費	0	5,000	全国総代会積立費	300,000	300,000
文	房具費	4,953	10,000	総会費	668,681	2,300,000
図	書印刷費	0	5,000	予備金積立金	100,000	100,000
通	信運搬費	9,740	30,000	予備費	0	163,000
				歳出合計	2,075,207	5,110,000

神政連山梨県本部歳入歳出決算 自平成22年 7月 1日 至 平成23年 6月 30日				歳出の部			
神政連山梨県本部歳入歳出予算 自平成23年 7月 1日 至 平成24年 6月 30日				款項	科目	22年度決算額	本年度予算額
歳入の部				経	常費	202,785	260,000
款項	科目	22年度決算額	本年度予算額	人	件費	150,000	150,000
会	費	1,849,000	1,820,000	備	品消耗費	11,449	30,000
特	別協賛金	228,000	354,000	政	事務所費	41,336	80,000
法	人寄付	1,014,180	1,100,000	組	治活動費	3,009,355	3,450,000
個	人寄付	250,000	300,000	織	調査研究費	543,246	850,000
雑	収入	92	3,839	調	寄付金交付金	113,030	200,000
前	繰越金	108,029	237,161	寄	研修費	1,899,900	1,900,000
年	計	3,449,301	3,815,000	一	都七県積立金	200,000	200,000
歳				一	都七県会議費	150,000	150,000
				予	その他経費	77,429	100,000
				歳	出合計	25,750	50,000
				予	備費	0	105,000
				歳	出合計	3,212,140	3,815,000

- 神社本庁統理**
- ◆**峡北支部** 株式会社内藤ハウス
 - ◆**峡南支部** 若宮八幡神社 笠井知治
 - ◆**神社庁長**
 - ◆**甲府支部** 八幡神社 山田一孝
 - ◆**浅間神社** 浅間神社 保阪幸吉、由原木一雄、志村良道、渡辺功
 - ◆**伊勢社** 中澤勝子
 - ◆**東山梨支部** 飛大神社 廣瀬勝
 - ◆**東八代支部** 八幡神社 加納俊雄、加納富枝
 - ◆**両の木八幡宮** 金子英生
 - ◆**峡南支部** 天神社 深沢政和
 - ◆**峡中支部** 八幡神社 安藤和彦、野田清次
 - ◆**若宮神社** 弘宮神社 中込勇、高橋登志
 - ◆**八幡神社** 八幡神社 宮島勝臣、宮島一江
 - ◆**峡北支部** 持久神社 有限会社細田工務所、株式会社内藤、内藤工業株式会社、内藤佐一、秋山幸仁、植松長治、内藤篤、内藤久夫、有限会社徳永工務店、有限会社坂本造園、内藤照男、細田象一、名取宜國、横森竹
 - ◆**南都留支部** 北口本宮富士浅間神社 山本測量設計株式会社代表取締役 太田利正
 - ◆**富士御室浅間神社** 小佐野勝、小佐野仁
 - ◆**浅間神社** 第六自治会、本庄利久、羽田政三
 - ◆**七社神社** 小林一朗
 - ◆**御嶽神社** 伏見幸雄、住倉利則
 - ◆**八王子神社** 卯辰會、戌亥會
 - ◆**浅間神社** 奥秋博一
 - ◆**浅間神社** 芙蓉建設株式会社代表取締役 大森彦一
 - ◆**北都留支部** 御嶽神社 小泉文久
 - ◆**牛倉神社** 石原英司

金品寄付者に対して感謝状贈呈

雄、細田啓二、山本友雄、小澤郷夫、内藤宗男、渡辺経三、徳永吉明、矢島東、矢巻令一、横森浩誌、土屋泰彦、内藤正忠、矢巻喜與志、秋山誉雄、若澤日出友、石井正人、石原和久、伊藤常雄、奥原忠男、小澤猛明、草間宗比古、越石文彦、坂本完、高木晴久、内藤哲雄、堀内健光、望月俊彦

諏訪神社 津金洋一
当麻戸神社 作地敏久
六社神社 原和慶、浅川健一、村山北畝旧村会
建部神社 下條重樹、下條和夫、下條功、下條博、下條順子

まんが古事記 (第二話)



お子さん、お孫さんと、
神話の世界をお楽しみ下さい。



「全国神社保育団体連合会」提供
 問い合わせ 東京都渋谷区代々木一―一―二
 本社本庁内
 電話 〇三―三三三九―八〇―一
 一冊 一二〇円

あらすじ

いたずら好き
 な須佐之男命は、
 高天原でいたず
 らばかりしてい
 ました。しかし、
 そのいたずらが
 あまりにも激し
 いので、日頃心
 のやさしい天照
 大御神さまも、
 さすがにお怒り
 になられ、天岩
 戸に隠れてしま
 われました。

たちまちこの
 世のなかは、ま
 つ暗闇となり大
 混乱です。そこ
 で思兼神とい
 う賢い神さまが八
 百万神々を集め、
 天照大御神さま
 を天岩戸からお
 だしする一計を
 案じるのでした。





(一五六号 第三話へ続く)

神社本庁 十月定例評議員会報告

本庁評議員 小佐野 正 史

去る十月十四日、神社本庁において、定例評議員会が開催され、本県より庁長、総代会長、小佐野の三名の本庁評議員が出席した。

冒頭、北白川統理が挨拶、第六十二回神宮式年遷宮諸準備は順調にとり進められている。東日本大震災義捐金募集に多額の篤志があったことへの謝意を述べられ、この秋こそ神明に奉仕する者として神社関係者を合せ復興をと述べられた。

議事に入り、まず平成二十二年度一般会計歳入歳出決算は、歳入五十二億六千五百一十四万四千三百三十二円、歳出五十億三千三百八十一万六千九百七十六円となり、二億三千百十九万七千四百五十六円が次年度繰越となった。次に平成二十三年年度一般会計歳入歳出予算は、震災の影響で負担金を暫定的に減額計上していたが、負担金賦課制度等財政調査委員会の答申をふまえ、岩手・宮城・福島の三県を減額の対象とし、一律七割五分の免除として負担金を算出することとなった。次に平成二十三年年度一般会計歳入歳出補正予算

は、二十二年度の決算と負担金の特別措置により、二十三年年度の一般会計の規模が既決予算額を一億四千八百五十八万六千四百五十六円上回る五十二億三百五十五万六千四百五十六円となった。これを受け歳入歳出補正予算の歳出では、災害対策関係、遷宮記念事業関係、各種基金積立等にそれぞれ増額補正が承認された。次に、本庁事務所組織規程に関し、震災に対し迅速な対応と適切な対策業務を行う事を目的に、本庁総務部内に震災対策室が設置される。神社本庁災害等対策資金の緊急支出に関する規程では、円滑な災害対策の体制整備が計られることとなった。次に、神社義捐金の募集に係る特別会計設置に関し八月末日まで募っていた神社義捐金の最終配分が決定され、寄せられた義捐金の総額は十二億八千八百四十四万五千三百五十四円、

神社義捐金については今後、より厳格な管理を行うため特別会計にすることとし、特別会計設置が承認された。
午後三時四十分閉会、神殿拝礼の後散会となった。

神宮大麻頒布始祭、全国推進会議報告

東山梨支部副支部長 高 野 英 夫

標記神事と会議が、九月十六日、十七日の二日間に亘り、神宮に於いて開催されました。

第一日目、(九月十六日)

「一千万家庭神宮大麻奉斎運動」モデル支部担当者会議が開催された。

「モデル支部制度について」説明があった後、栃木県下都賀支部、徳島県鳴川支部、北海道南支部より活動状況の報告があった。

それぞれの支部が大麻増頒布対策委員会等を設け、啓発用のポスター、看板、チラシ等を作成し、神職総代一丸となって大麻の増体に向け努力を続けている旨報告があった。

第二日目(九月十七日)

「神宮大麻頒布始祭」が斎行された。

後「平成二十二年 度 神宮大麻頒布表彰式、秋季推進会議」が神宮会館大講堂で行われた。

特別表彰頒布優良奉仕者として、武田神社宮司土橋勝夫様受賞。「推進会議」に続いて、

議 事

一、平成二十二年 度 神宮大麻頒布数について
一、平成二十三年 度 神宮大麻頒布数について
神宮より説明。

一、モデル支部制度について
神社本庁より説明。

一、大麻頒布事例報告について
神奈川県相模原支部より、県下の神社での頒布状況の実態調査の内容の報告があり宮城県桃生支部から、震災被災者仮設住宅への取り組み状況の報告があった。

支部員が白衣、白袴で仮設住宅を訪問し、神棚、大麻を奉斎した。仮設住宅で暮らしている家庭から、震災後ようやく家族の手を合せることができてよかったという喜びと感謝の言葉をいただき、地味な苦勞が報われたとの報告があった。

私達の生活の中に神の存在があり、暮らしの中の光になっていることを改めて思い知らされる会議であった。

夏の教化委員会事業

教化委員 古屋真弘

緑陰子供会

教化委員会では恒例の緑陰子供会を七月三十日甲府市中道の佐久神社(志村重治宮司)境内で子供三十名、委員、支部神職、総代など約七十名の参加をもって開催された。



全員が拜殿にてお参りのあと、境内で青年神職をリーダーとしたレクレーションゲームで賑やかに楽しんだ後、教化委員手作りのカレーで昼食、午後は神道雅楽会の皆さんの雅楽を聞き、その後、祭祀と書き込まれた行灯を皆で作り、参加の記念品とした。心配された雨も運営に支障がでるほどではなく、夏の境内には子供たちの元気な声が響いていた。

親子参宮団

八月十八日、十九日の二泊二日で親子参宮団が三十名の親子の参加で開催された。一日目は、

外宮の御垣内参拜、内宮神楽奉納、内宮御垣内参拜と正式参拜を行い、夜には特別なお計らいで、単独で夜間参拜をさせて頂いた。二日目には、お楽しみこの四月に開館したばかりの名古屋市にある「リニア鉄道館」を見学、帰途に着いた。

はじめてのいせ神宮

須玉小学校 三学年

岩下葵衣

夏休みがはじまる少し前に、いせ神宮がテレビでしようかいされていきました。とても大きな神社だなあと思いました。そして夏休みのしゅく題の中で自分の住んでいる地いきについて調べることがありました。わたしは、近くにある諏訪神社について調べました。諏訪神社では、春のおまつりでお神楽をほうのうしていて、その事について調べたので、今回いせ神宮へのおさんぱいりよ行は、とても楽しみでした。行きながらのバスの

中で、ビデオを見せてもらい、私がお神楽を調べた中に出てきた名前「天てらすのおおみかみさま」とか出てきて、もっと楽しみになりました。

まず行ってびっくりしたのは、私はいせ神宮は一つの神社だと思っていました。でも行って見たら、外宮と内宮にわかれていました。

さいしょに外宮へ行きまし。そのまま入って行くのかと思ったら、まずは、手水しやでおきよめしてから入ると教えてもらい、これからはじめてでした。

正宮まで思ったより長く、広くておどろきました。そしてとくべつに子どもの私たちも中に入れてもらいおまいりすることができて、うれしかったです。

次に内宮へ行きました。うじばしと言ういつも見ているはしとちがって木で出来た大きなはしをわたり中へ入りました。とてもすごいはしでした。外宮とちがつていすず川でおきよめをしました。ちよつとあらいにくかったです。次に神楽でんへ行き、神楽を見せてもらいました。

近くの神社で見ている神楽とちがいで、女の人がおどっていてとてもきれいでした。正宮まで行く間にとても太い大きな木がた

くさんありました。人が何人かくれてしまふ大きな木でした。内宮でもとくべつに中に入っておまいりさせてもらいました。外宮も大きかったけど内宮のほうがもっと大きく広がってびっくりしました。

夕ごはんを食べた後、内宮夜間さんぱいへ出かけました。昼間と同じように、うじばしをわたって行ったけど、とてもしずかであつたらだつたのでちよつとこわかつたです。いろいろ話を聞かせてもらつたり、目をつむって夜の音を聞きました。とてもよかつたです。

全部見たり聞いたりしたことからはじめてとてもべんきょうになりました。今回は、時間が短かくて、いそがしかつたけれど、次は、もう少しゆつくりせつめいを聞いたり、見学したいです。また次もさんかして、新しくなつたて物を見たいと思います。



初任研修を受講して

稲積神社 権禰直

志村 奈実

直階を取得して八年が過ぎ、その間、神職として奉仕する事もなく初任研修を受講しました。今回は人数も多い様で、内、半数が女性神職だったので心強かったです。まだまだ女性神職が少なくめずらしいと感じられるのが実際のところですが、今回の研修ですと、その様な事を全く感じさせず、気持ち的にも楽に感じました。講義は、敬神生活の綱領から始まり、神宮、神社本庁について、神社実務、奉務心得を学びました。八年前の講習会とは違う講義に新たに再スタートした気持ちです。今まで神職として奉仕できなかつたが、これを機に神道とは何か、伝えていかなければならない由緒ある伝統、神職として神恩に感謝する意、世のため人のために奉仕する意などを若い世代、子供達へ伝えていかなければならないと、強く思う次第です。日本の文化でもある神道を、これからの人に伝えなければ未来がなくなってしまう。現代の神道も、氏子崇敬者が減っている。昔からの行事が子へ伝

承しない。神棚がある家庭が少ないといった問題もあがっている。この様な問題を解消していくのも現代の課題である。これらの問題は、今回初任研修を受講した私達世代が解消していくべき問題ではないかと感じました。これらを伝えるには先ず私自身が、神意を奉戴し、神前の奉仕に励み、精進していく事が必要であると感じた四日間でした。

気持ち新たに

浅間神社 出仕

津 金 善 美

この度七月三十日〜三十一日と、八月六日〜七日の二回に分けて第十六回初任神職研修会が行われた。神職の研修といえば「泊まりで缶詰め」が付きもの。ドキドキしながら神社庁へ向かい、開講式を受けると、早速講義が始まった。

講義の内容は、どれも神職養成講習会（私は國學院大學にて受けた）で受けたものの確認のようなものであったが、どの先生も自分の経験を踏まえ、分かりやすく話を進めてくれた。知識として大きく変わったこ

とはないが、改めて基本である心構えや姿勢を見つめなおす為のとてもよいきっかけになったのではないだろうか。

また、今後何度となく顔を合わせていくであろう仲間たちに出会ったことは何よりも尊い。今回出会えた皆で山梨県の神職界

全国敬神婦人大会

に参加して

住吉神社敬神婦人会々長

神 戸 鶏 子

去る九月六日、全国敬神婦人大会が台風十二号の爪痕に心を配るなか、全国津々浦々で鎮守様の奉賛活動を通じて地域の発展に寄与されている会員の皆様方千余の参加により、第六十二回大会が東京都のホテルオークラを会場として盛大に挙行されました。私は、この意義ある大会に参加の機会を得ましたので、その概要について報告をさせていただきます。本県からの参加者は、県会長の乙黒夏恵様を始め二十四名（武田神社六名、住吉神社十八名）でありました。高層ビルが林立する都心の会場は、従来より毎回参加して参りました会場とは違った雰囲気

を少しでも盛り上げていけたらと思う。

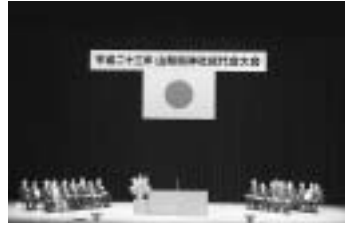
研修が終了すれば神職のキャリアとしての道がスタートする。今回の研修で学んだこと、再確認したことを念頭に、新たな気持ちで明日からの奉務に努めたい。

あり、新名所スカイツリーや、伝統を伝える浅草寺などから常に新しく、又特色を凝縮している都市であるなど、改めて見直し、感慨を覚える大会参加でありました。大会の進行は、式典、議事、記念公演の三部により進められ、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和、東日本大震災被災者への黙禱、会務報告、会歌斉唱と型通りに進められ、続いて記念公演に移り、和装姿の語り部、平野啓子先生より、古事記の物語、「国生み」「国づくり」の語りをユーモアを交えながら話して頂き、「神話」である古事記を改めて見直す機会を得、有意義のお話しであったと感じた次第であります。大会終了後、参加した皆様方が今日の感動を胸に夕闇迫る東京を後に一路甲府へと車上の人となったのであります。以上雑駁ながら大会の報告と致します。

山梨県神社総代会大会

副会長

天野和喜



例年山梨県神社総代会大会は六月に開催されるが、今年は六月に北海道旭川市で全国神社総代会大会が開催されたため、本大会が、九月六日午後一時三十分よりコロナー文化ホールにて多くの方が参加され、開催された。

第一部の大会は定刻、小林弘樹副会長の開会の辞から始まる。宮川県総代会会長に合わせ国旗を通して神宮の遙拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領は県神道青年会田邊将之会長の先導で唱和する。

次に宮川睦武会長の式辞では、昨年完成した新神殿・会館竣工、神宮式年遷宮奉賛会募金の協力に対する御礼、又、神社役員は神職と共に各行事を通して地域の皆様と親睦を深めさらな

る神社護持に繋がるよう述べた。次に羽中田進県神社庁長は、挨拶で日頃地域神社の維持管理・祭典の振興、神宮大麻の頒布等、への感謝の言葉を戴いた。続いて本社本庁規程表彰の伝達（一名）と、全国神社総代会規程表彰の伝達（二名）と、奉仕神社の振興の為に尽力された役員・総代三十四名には県神社総代会長表彰と記念品が宮川会長より授与された。

次に来賓の元衆議院議員赤池誠章、全国神社総代会長岡村正（代読）から祝辞を戴いた。出席来賓の紹介後、受賞者を代表して峽北支部の矢崎一郎様から謝辞があった。

次に大会宣言が堀内邦満理事より発表され、全員の拍手をもつて承認された。笠井義仁理事の先導により萬歳三唱され、天野和喜副会長の閉会の辞で第一部を終了した。

第二部の清興（歌謡）は真矢翔多さんの熱唱に拍手が沸いた。第三部の清興（浪曲）は東家浦太郎先生を再び迎え前回の続きのお話と、歌謡を感銘深く拝聴することができた。

午後四時前に大会を無事終了し帰路についた。

第十一回神社関係者

囲碁大会報告

山梨県教育関係者神職協議会

事務局 小佐野 文 男

山梨県神社庁主催、教育関係神職協議会（興石 仁会長）主催の囲碁大会が新装なった神社庁二階神殿にて開催され、小中学生二十四名、県内八支部より囲碁を愛好する神職及び氏子崇敬者四十八名、関係者総勢八十名が参加し日頃の囲碁の腕前を競い合った。

開会式では羽中田進神社庁長が挨拶。「今年には県内神社より十六チームが参加し、この囲碁大会を通じ神社と地域の氏子さん達との交流親睦を深め、青少年にはこの大会での入賞が大いに励みになっていく」と。続いて興石会長の挨拶、トロフィーの返還があり、毎年指導を頂いている北斗会囲碁教室の青沼貴夫氏から対局上の注意。最後に高野英夫囲碁担当より運営上の注意があり、開会式を閉じた。なお、本年は第十一回と言うことで十回まで使用したトロフィーを前回優賞者等に授与。神社庁長・宮川睦武神社総代会長のご厚意により金銀に輝くカップに新調されました。対局は九時半に始まり、小中

学生は個人戦とし、有段者・上段者・初心者の部に分け、大人顔負けの白熱した戦いが行われました。一般の部は三人一組で編成チームを組み、またAクラスとBクラスに分けそれぞれのチームが神社対抗団体戦として競い合った。

戦い終わって、青沼審判長より、「神社関係者の囲碁大会はそれぞれのチーム参加者のマナーが良くいつも驚いている」との講評があり午後四時に終了した。結果は以下の通りです。

青少年の部（有段者）

優勝 佐藤 大気（長坂小）

準優勝 内田 蒼葉（豊勢稲園）

第三位 原田 環（貢川小）

青少年の部（上段者）

優勝 田中 耕大（国母小）

準優勝 佐々木陽帆（契付属小）

第三位 中込 匠（竜王西小）

青少年の部（初心者）

優勝 西尾 結菜（豊勢稲園）

準優勝 矢ヶ崎華奈（竜王北小）

第三位 樋川 健太（西島小）

一般の部（Aクラス）

優勝 三島神社（大月市）

準優勝 古宮太神社（甲州市勝沼）

第三位 福地八幡神社（天月市）

一般の部（Bクラス）

優勝 八王子神社（富士吉田市）

準優勝 八幡神社（大月市）

第三位 氷川神社（甲州市勝沼）

表紙写真説明

七五三で神社に参拝する子ども。七五三とは、古くは「髪置き（かみおき）」「袴着（はかまぎ）」「帯解き（おびとき）」（紐（ひも）解き）の祝いと言い、髪置きは三歳の男女児の祝い、もう赤ん坊ではないという意味から、今まで剃っていた髪をこの日から伸ばし始める儀式、袴着は五歳の男児の祝い、初めて袴を着ける儀式、帯解き（紐解き）は七歳の女児の祝いで、着物の付け紐を取り去り帯に替える儀式。

現在では、その年齢にあたる子どもに晴れ着を着せて、十一月十五日に神社へ参拝し、子どもたちの成長と健康を感謝すると共に、今後の成長とさらなる健康を祈願する神事。

県内でも多くの神社に着飾った子どもがたくさんお参りにみえる。写真は長曾我部睦氏撮影（平成二十年度武田神社写真コンテスト特選作品）



支部だより

甲府支部

山梨県神社庁甲府支部神職総代
合同総会研修会を受講して

朝気熊野神社

渡邊 千紗

平成二十三年七月二十五日アピオにて開催された甲府支部神職総代合同総会に評論家で軍事ジャーナリストの潮巨人先生をお迎えし、講演を頂いた。先生は航空自衛隊退官後、日本の防衛意識・危機管理意識の低さを「正論」等のオピニオン誌上で指摘しておられる。本講演では米国同時多発テロ事件、尖閣諸島中国漁船衝突事件、東日本大震災後の自衛隊の活動内容等を例に挙げ、戦後忘れ去られた軍事の文化的・社会的意義やその本質を捉え直し、反戦平和思想を打破しなければならぬとの持論を展開された。今、正に日本中が危惧し関心を抱いている諸問題（のみならず人物まで！）を舌鋒鋭く且つ論理的に解説、「国体」という、マスコミ的には煙たがられる単語をキイワードに講演は幕を閉じた。自国の

歴史への愛情を持つことは普遍的な感情であるが、だからこそこの世情においては我々神祇界が率先して啓発していかねばならないと志を新たにされた次第である。

峡北支部

峡北支部長

森越 義建

一、峡北支部通常総会開催

去る八月三日、平成二十三年度支部通常総会が、長坂町魚光会館に於いて、山梨県神社庁長羽中田進様・同県神社総代会長宮川睦武様始め五名の来賓の方々の臨席を戴く中で開催となった。総会は次第により進め、森越支部長挨拶では、支部内物故神職二名の御冥福、退職神職への感謝・支部活動協力のお礼を述べ、羽中田神社庁長、宮川神社庁総代会長より御祝辞を賜わった。議事では、議案の第一号から第七号までを上程し慎重審議滞りなく承認を納めて総会が閉会となった。

二、浦安の舞講習会開催

去る九月四日、峡北支部主催第二回浦安の舞指導者講習会を管内神社指導者等が参加し、支部長本務社の逸見神社拜殿に於いて開講した。講習会には、講

師として、酒折宮飯田淳美先生をお招きし、助教二名の方と共にご指導を頂き、武田神社・浅間神社・管内神社指導者等十六名程が参加し終日研鑽を深めあった。

北都留支部

北都留支部総代会総会の報告

総代会副会長

奈良 俊一

北都留支部神社総代会総会は七月二十八日大月市民会館に於いて、羽中田庁長、宮川総代会長、石井大月市長のご出席を頂き、地区理事・各神社役員九十名参加のもと開催した。

まづ、神宮遥拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和に続き、東日本大震災で亡くなられた方々への黙祷を行った。

天野会長より参加者への謝辞、神社関係の諸行事協力へのお願いがあり、来賓の方々より祝辞を賜わった。

議事に移り平成二十二年度二十三年度の議案が審議され、何れも原案通り可決承認された。

後、大月市郷土資料館学芸員の稲垣自由氏に「北都留地域の古墳」と題して講演をいただいた。第二部として、懇親会を行い、総会を終えた。

社頭講話

新嘗祭（秋祭り）について

前三嶋神社宮司 吉村明雄

農業殊に米作りを中心として生活が成り立っておりました。昔の我が国では、すべてと言ってよい程の年中行事が、その米作りに関わるものでした。

これらの年中行事の中でも最も大切なものが、農村の秋祭りでした。

これを官制の下に行うようになって、新嘗の祭りとなったのでございます。この秋祭りに収穫された米を先ず神さまに供えて、感謝の誠を捧げ、自分達もその恵を分け頂き、神さまの御恩のありがたさを味わうのが秋祭りでありました。

「アキマツリ」とは「アキ

グヒノマツリ」からきた言葉と言われ「アキグヒ」とは、飽食

という言葉の言葉でありまして、満足感にひたる程存分に食べることを意味しているのでございます。一年を掛け汗水たら

して苦労して作った米も大部分は年貢として納めなくてはなりませんので、せめて収穫の時だけは腹一杯食べ満足感にひたる

ことができたので、そのような祭であるとの由来から来た名称なのでございます。大月市大町下真木諏訪神社の「クイツコ

マツリ」など、その名残りの一つであります。

又もう一つ大切なことは、新米を頂くとすることが、再生された稲の生命を頂くことであり

深く考えれば穀霊そのものを頂き、自らの生命をもよみがえらせることになるのでございませう。このように神そのものを頂くことになるが故に嚴重なる齋戒や物忌みをしなくてはならないと、清浄な心と体になって臨んだのでございます。

私達が食によって生命を永らえていられるのは神そのものの生命を分け頂いているからであり、そのことへの純粹でひたむきな感謝の気持ちの表れが秋祭り新嘗の祭りの本旨であるのでございます。

このような私達の生命の根源である食物、特に米への考え方が、日本民族の伝統の意識となつて秋祭りを盛大にしてきたのであります。現今の食べ物粗末にし感謝の心も失いつつある世相をみる時、もう一度根源にかえつて秋祭りの心をよみがえらせたものとひたすら思うこの頃でございます。

吉村明雄著「私の神道講話」

から。著者の故吉村明雄氏は、大正六年大月市生。大月市駒橋鎮座三嶋神社前宮司。皇典講究所にて資格授与の後、県内高等学校の教諭を歴任。同時に三嶋神社宮司ほか四社の宮司を兼務。昭和五十五年神社庁理事、北都留支部長。昭和五十八年神社庁副庁長（三期九年）、神社庁教化委員、庁報「かひがね」編集委員長、本庁参与、神宮評議員を歴任。

神社教化、神道講話の造詣に深く、神明奉仕の中、社頭でお話になったものや、庁報などに寄稿した玉稿を編集整理し、平成十三年に刊行されたものがこの「私の神道講話」。平成二十二年逝去。



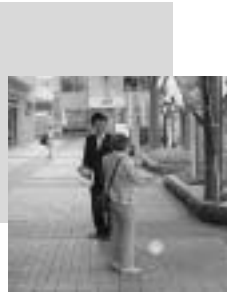
靖國神社参拝啓発活動

甲斐奈神社権禰宣

高原 光 啓

「良い活動だから是非続けて」これは今年の活動の折、掛けられた言葉である。青年会では広く県民に関心を持って貰おうと毎年八月に甲府駅前で靖國神社公式参拝を訴えている。

残念ながら今年も首相・閣僚誰一人参拝しない終戦記念日だったが、冒頭のような意見を励みに、英霊に対する公的な慰霊顕彰が当たり前になるよう粘り強く活動を続けて行きたい。



雅楽会宿泊研修

山梨県神道雅楽会

秋 山 忠 也

山梨県地方研修所主催、第三回、雅楽宿泊研修が八月二日三日の両日開催された。

この研修は、人間国宝である宮内庁楽師に直接指導を戴く事が最大の目的である。

講師は龍笛、上明彦元首席楽長、箏、池邊五郎楽長、笙、池辺光彦楽長補の各氏。

研修は管別に唱歌、手移り、運指法等細かく指導戴いた。閉講式では研修生に修了証が授与された。



甲府刑務所慰霊祭を斎行

山梨県神職保護司会事務局長

石 原 鎮

当県神職保護司会は、去る九月十七日秋季慰霊祭を甲府刑務所に斎行した。これは県内の各宗教団体が持ち回りで執り持つていて、神式では二年ぶりになる。

刑務所内講堂の舞台上に祭壇を設営。刑務官、収容者達が参列し、物故者名簿に所長、収容者の代表が玉串を捧げた。

祭典では、当県神道青年会長田邊将之氏による舞楽「蘭陵王」が奉納され、齋主根津泰昇当国会長（教誨師）の講話で締めくくった。



日本会議山梨県本部総会並びにキャラバン隊奉迎について

八月三日標記と尖閣諸島を守る県民集会を会員八十名とご来賓七名のもとに行なった。総会は根津副会長の議長により異議なく承認され、領土領海を守るための請願署名について山梨はノルマに達しているが引き続き活動を行うことを愛国心に燃える会員一同決議し、キャラバン隊の報告を受け盛会に終了した。



「神殿新嘗祭」

記

初穂を供え、今年一年の収穫の感謝と喜びを神に奉告する「新嘗祭」。恒例による神事を下記により斎行致しますのでご参列下さい。

- 1、日 時 平成23年11月14日(月)
午後1時30分
- 2、場 所 山梨県神社庁神殿



「山梨県神社庁顧問参与会」

記

神職身分二級以上の神職で構成されております神社庁顧問・参与会第十九回例会を下記により開催致します。

- 1、日 時 平成23年12月8日(木)
午後3時
- 2、場 所 ホテル談露館



「神宮初まいり」

記

毎年恒例となりました神宮初まいりの旅は、内宮・外宮の両正宮の正式参拝と大阪「天満（てんま）の天神さん」で親しまれている大阪天満宮と今年御鎮座一八〇〇年という節目を迎えた住吉大社に正式参拝を致します。お誘い合わせの上、御参加いただきます様ご案内申し上げます。

- 1、日 時 平成24年1月18日(水)～20日(金)
(二泊三日)
一日目・・・神宮での御垣内特別参拝、
御神楽奉奏 鳥羽泊
二日目・・・大阪天満宮正式参拝等
大阪泊
三日目・・・住吉大社正式参拝等
- 2、料 金 36,000円



「新穀感謝祭」

我が国の御親神、心のふるさとと仰ぐ「お伊勢様」。その限りない御神恩に感謝の真心を捧げ、「瑞穂の国」と称えられた我が国柄への思いを新たにす新穀感謝祭を今年も以下の通り実施致します。

ご近所の方、ご友人などお誘いの上御参加下さい。

記

- 1、日 時 平成23年11月16日・17日
(一泊二日)
- 2、神宮では御垣内にて特別参拝、神楽殿での御神楽の奉奏が執り行われ、「干支の飾り皿」が参拝記念として撤下されます。
- 3、宿泊ホテル、二日間の行程、参加費は支部によって異なります、支部役員・神社宮司にお尋ね下さい。



154号訂正について

P 5 「全国総代会旭川大会報告」部分の執筆者神社名
誤) 笹屋神社→正) 笠屋神社
P 13 「山梨県氏子青年協議会総会報告」部分の執筆者名
誤) 鶴田雄勇→正) 鶴田勇雄

以上、訂正しお詫び致します。

1・14	1・9	11・28	11・27	11・23	11・22	11・19	11・3	10・20	10・12
河口乳ヶ崎金山神社御幣渡し	一宮町中尾神社道祖神祭	長坂町大八田建岡神社新嘗祭	大泉町逸見神社新嘗祭	甲府恵比寿神社えびす講祭	南アルプス市高尾穂見神社新嘗祭	下吉田小室浅間神社末社室宮	南アルプス市高尾穂見神社新嘗祭	南アルプス市諏訪神社祭	武田八幡宮例祭
	(十日)						八代町米倉鉾神社祭	甲府市中畑諏訪神社祭	市川三郷町鴨狩城山神社祭
							市川大門一宮浅間神社祭	富士川町長沢八幡神社祭	
							弓削神社例祭		

祭典日程